東京都立中野工業高等学校
# 同窓会々報
平成6年夏期号

## 母校 創立50周年を迎えるに当たって

同窓会の皆様方には、お元気でおすごしの事とお慶び申し上げます。

昨年は同窓会を通じて会の発展の為に絶大なる御盡力を頂きまして心より感謝いたしております。

お蔭様で同窓生の集まりも大変に活発に活動されるようになりまして喜ばしい事と思っております、誠にありがとうございます。

同窓会長　久保村　昭　衛

いよいよ来年六月には、都立中野工業高等学校創立五十周年になります。このために、学校の教職員はじめ、同窓生・PTAの皆様方が一丸となって意義ある五十周年の行事を行うべく会議を重ね頑張って頂いております。又、五十周年記念行事に合わせて同窓生名簿を発行いたしますので、住所の確認等の御協力を特にお願い申し上げたいと思います。

又、同窓会で運営いたしております『都立中野工業高等学校清里寮』の財団法人化に付いては、今年度中の設立を目標に進めております。どうか物心両面からの御協力をお願い致します。この清里寮は総て同窓会で運営しております事を特に申し添えまして、より一層充実した学校寮となりますように皆様方の御利用率の向上は勿論の事ではありますが、どんな些細な事でも結構でございますので御指導御鞭撻の程を衷心より御願い申し上げます。

五十周年記念の式典及びパーティーは別記の通りに行いますので、万障お繰り合わせの上、是非とも御出席の程お願い申し上げます。

【平成六年七月十六日（土）に久保村昭衛同窓会会長が、早稲田大学国際会議場「井深記念ホール」に於て、カレッジシンポジウム「21世紀にむけて、生涯教育と専門学校」のパネラーとして参加され、ご意見を大いに披露された。】

左から　戸沼幸市（早稲田大学理工学部教授）、安藤信敏（大学常任理事）、
小池千枝（文化服装学院名誉院長）、谷　資信（早稲田大学名誉教授）、
久保村昭衛（東京電音株式会社社長）、下島資子（設計事務所所長）、敬称略。

# 就任二年目を迎えて

校長　小林一夫

同窓会の皆様、こんにちは。今年も早や半年が過ぎてしまいました。皆さん方には如何お過ごしでしょうか。

さて、教育界では今、二十一世紀に向けて、新しい時代に対応した魅力ある学校づくりの必要性についての議論が盛んです。そして、各学校が、その期待に応えるべく色々と模索しているところです。

そういった中で、本校の総合技術科への移行は、まさに社会の要請を先取りしたものといえるでしょう。皆さんの中には、自分が卒業した機械科・化学科・食品工業科といった懐かしい名称が消えてしまうので、寂しいと思われる方がいるかも知れません。それだけに、中工をより時代に対応した魅力ある学校にしなければならないと責任を感じている次第です。

その総合技術科も、2年目を迎えました。最も心配していた2学年でのコース分けもほぼ理想通りに行うことが出来ました。今のところ、学科改編による新しい学校づくりは順調にいっているところです。これからは、教育内容の充実により一層の力を入れていきたいと思っています。

ところで、本校創立五十周年記念行事も、いよいよ来年になりました。本校をPRする絶好の機会ですので、是非とも立派な行事にしたいと思っています。そのためには、同窓会の皆様のお力添えが不可欠です。日頃、久保村会長を始め、多くのかたがたにご助力を頂いておりますが、さらに一層のご支援をお願い申し上げます。

# 感性を育てる中工の教育

教頭　藤縄秀一

同窓会の皆様こんにちは。

今、中工の前庭は、つい先日、生徒とPTAの皆さんで植えた色とりどりの花でいっぱい。三本のけや木は相変らず、堂々と中工の教育を見守っています。

多分、創立の頃もかように厳粛に挙行されたであろう入学式の翌日、対面式が生徒の手で実施されました。

上級生の大きな拍手の前を、新入生が入場する。その緊張した顔の初初しさ、生徒会長の歓迎のあいさつ、新入生代表の誓いのことば、そして、新入生はまたも、万雷の拍手の中を退場していく。その、一つ一つの進行は全て、生徒の司会により進行していく。

生徒はこの瞬間を決して忘れないだろう。

五月になれば修学旅行や遠足がある。そして、球技大会、先輩による進路講話、合唱祭と伝統的な行事が続く。日々のクラブ活動や委員会活動もある。

これらの行事を通して、中工の生徒は集団の中で互いに認め励まし会い、友情を深め、成就感を体得する。

行事を演出するのはもちろん先生方であり、厚みを加えるのは伝統である。

真・善・美に触れて感動する心、大自然への畏敬の念、心身を鍛練する中での達成感、奉仕的な活動を通しての連帯感などをできるかぎり生徒に体得させたい。このことが、生徒が生涯にわたって、心豊かにたくましく生きぬく意欲や態度を育成することになるからである。

伝統はいつのまにか生徒の心に染み透り成長の糧になります。

同窓生が築き上げた伝統を引継ぎ、さらに磨きをかけるのが今後の課題となります。

いつまでもあたたかく見守っていただきたく、また、時には、厳しくご指導もいただきたいと衿を正しております。

# 学科改編のその後

食品工業科
北川　昇

学科改編につきましては、本校の多くの先生方が長年に亘り携わってまいりました。私は最後の2年間の総仕上げにお手伝いしただけであり、この様な題の文章を書く資格があるとはとても思えませんが、私なりに感じたことでよろしければ、それなりに書いてみたいと考えております。

また、この学科改編につきましては、中野工業高校を生き残らせるためにどういう手だてを講じればよいかということと、中野工業高校の職員が学校減へ向けて何の努力もしなかったとあっては卒業生に対して申し訳ないということから始まったものです。ですから次の改編は学科ではなく、学校改編ということになり、ぜひとも卒業生の皆様のご助力がなければ、成り立ちません。この点ご理解の上、私の話をお聞き下されば幸いに存じます。

同じ職業高校と言っても、地方の職業高校と東京の職業高校では学校改編の性格が、多少異なります。と言いますのは、地方の場合親と同居するためにはどうしても地元の企業に就職しなければならず、そのために大学進学をせずに、職業高校に来るといった例が多いと思います。ですから地方の職業高校は、常に地域に必要な産業は何であるか、今後不足する技術者はどんな分野であるかという点を視野に入れて改編を行っていけばよい訳で、ある程度の見通しを立て易いといった利点があります。一方、東京の場合には、もともと地方から人が集まって出来た都市ですから、その学校に行けば、何らかのメリットがあるということにならなければなかなか人は集まりません。また、学校内でどんなに素晴らしいことを行っていたとしてもそれを宣伝していかなくては誰も気づいてはくれません。さらに学校改編ということになると、今までその分野でメリットを受けていた専門学校や高専、あるいは短期大学の領域を犯すことになり、今までも少なからずこれらの影響を受けてまいりました。東京都は今後、各職業高校に特色を持たせ、もっとその技術を伸ばしたい所には専攻科を設立してもよいのではないかと考えているようです。東京都立工芸高校は、「もう工業高校ではない。デザインを勉強するための学校である。」と勤務している職員もそう話しており、校舎自体の外観も専門学校と判断しても間違いないような有様です。

中野工業高校に、どんな特色を持たせ、専門学校や短大にもひけを取らないような資格を取らせる学校にするためには、どんな方向がよいのか、また、そのためには校名をどうすればよいのか、学科改編が成った今から皆さんで考えていってほしいと思います。

走り出すのは早ければ早い程、先行利益は大きいものです。五十周年を契機に次なる目標を定めて走り出したいと考えております。

同窓会の皆様の益々のご発展を祈念して私の文を終りたいと思います。

# 第35回 中工祭開催

昨年十一月二日、三日に母校で中工祭が開催されました。当日は、在校生の努力が実りとても素晴らしい文化祭になりました。三科は、それぞれ特長を生かした研究発表を行い、楽しい催し物も数多く充実したものでした。

同窓生控室では、同窓会関連のパネルを展示、パンフレットの配布、住所確認等を行ったり、と積極的に同窓会活動の広報作業を行った。

中工祭は毎年十一月三日、文化の日に開催されておりますので是非母校までお出かけ下さい。

▶第三十五回　中工祭

◀二階　同窓会控室にて

# 平成六年度同窓会全体総会開かる

平成六年六月五日（日）母校会議室に於て、同窓会定時全体総会が開催された。会長以下百六十八名（委任状出席を含む）が出席した。

事務局長の開会宣言の後、会長挨拶、島田事務局長を議長に選出、議事が進められた。

一、平成五年度事業報告及び決算報告の件
二、役員の改選に関する件
三、平成六年度事業計画及び収支予算案の件
四、創立五十周年記念行事実行委員会経過報告
五、同窓会会員名簿編集の件
六、清里寮運営委員会特別報告

各議案の詳細は別紙を参照して下さい。

尚、役員の改選につきましては、創立五十周年行事を成功させる為、一部役員の改選に止め、ほぼ従前の体制で活動して行く様、決議された。

## ◆新役員（任期・平成六年四月～八年三月）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会長 | 1M | 久保村 昭衛 | 総務委員長 |
| 副会長 | 3M | 竹井 博 | 名簿委員長 |
| 副会長 | 3C | 新井 英光 | 記念委員長 |
| 副会長 | 5M | 澤谷 周治 | 財団委員長 |
| 副会長 | 10M | 池田 和司 | |
| 会計 | 5F | 遠藤 靖彦 | |
| 会計 | 10F | 神田 一夫 | |
| 会計監査 | 4F | 小杉 健次 | |
| 会計監査 | 7C | 中村 真一 | |
| 参与 | 1M | 渡辺 和義 | |
| 参与 | 1M | 梶 史郎 | |
| 参与 | 3C | 織田 知明 | |
| 参与 | 8M | 三浦 政勝 | |
| 事務局長 | 7M | 島田 勝利 | |
| 専任幹事 | 4M | 五十嵐 広司 | 総務委員 |
| 専任幹事 | 4C | 桜井 隆三 | 名簿委員 |
| 専任幹事 | 7M | 田中 正二 | 財団委員 |
| 専任幹事 | 9F | 柏井 富士夫 | 総務委員 |
| 専任幹事 | 10F | 梅田 清永 | 記念委員 |
| 専任幹事 | 11M | 中村 勝一 | 財団委員 |
| 専任幹事 | 14F | 小池 邦男 | 事務局 |
| 専任幹事 | 14C | 金谷 昶明 | 名簿委員 |
| 専任幹事 | 16M | 松崎 幹哉 | 財団委員 |
| 専任幹事 | 16M | 細谷 衛 | 記念委員 |
| 専任幹事 | 17M | 西村 満郎 | 総務委員 |
| 専任幹事 | 17F | 江野下 健二 | 名簿委員 |
| 専任幹事 | 17F | 松本 代司和 | 総務委員 |
| 専任幹事 | 18F | 小林 徹三郎 | 事務局 |
| 専任幹事 | 18C | 北村 耕作 | 記念委員 |
| 専任幹事 | 20F | 神山 米三 | 事務局 |
| 専任幹事 | 21F | 森 恵理子 | 記念委員 |
| 専任幹事 | 25F | 矢島 みどり | 名簿委員 |
| 顧問 | | 草開 省三 | |
| 顧問 | | 中川 栄吉 | |

## ◆和気あいあいの新春交歓会◆

去る二月五日西落合の「ハイルバード」に於て、同窓会・PTA・PTAOB共催で、新春交歓会が催された。総勢八十名、内同窓会からは二十八名が参加した。昨年迄の交歓会は、ホテル等で立食パーティー式に行われていたが、今年は、「ハイルバード」の大広間で宴会式で和やかな雰囲気の中で始められた。ゲーム有り、カラオケ有り、談笑有りで、あっと言う間の三時間が過ぎ、母校の益々の発展と、創立五十周年記念行事を成功させる為にと、関係者各位の確固たる協力を約し、お開きとなった。

## ◆毎年恒例の平清会旅行会◆

平清会とは、PTAOBが主体となり、清里寮を積極的に利用して、寮の運営が活性化する様、努力する目的で志を同じくする人達が集まった会です。

今年は全員で十八名が参加し、小型観光バスで清里寮を目指した。寮では、遊歩道を散策し楽しいひとときを過ごした。

# 創立五十周年記念行事実行委員会 開かる

昨年来よりご連絡致しておりますが、来年六月に母校は創立五十周年を迎えます。この行事を成功させるため、実行委員会を組織し活動致しております。昨年九月に第三回の実行委員会を、本年二月に第四回、六月に第五回の委員会が開かれ、組織、予算等について検討が重ねられております。他にも各小委員会が催され、徐徐にではありますが形を整えてまいりました。

同窓生各位のご協力により、五十周年記念誌の編纂につきましても、順調に進んでおりますが、皆様より拝借致しております、大切な資料に関しましては、今しばらく借用させて頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

## 各委員会よりの報告

**式典委員会**　（担当　澤谷周治　5M）

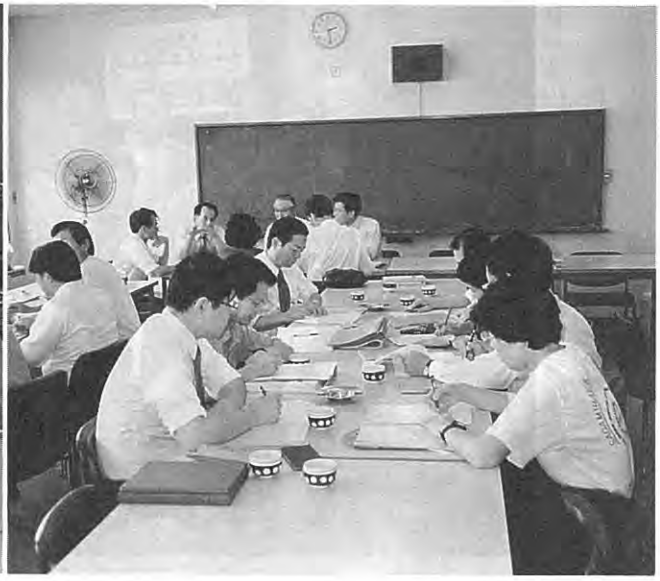
会場は中野ゼロホール（旧中野公会堂）を予定している。教育庁、学校及び在校生を主体として、講演を中心に計画が進んでいる。

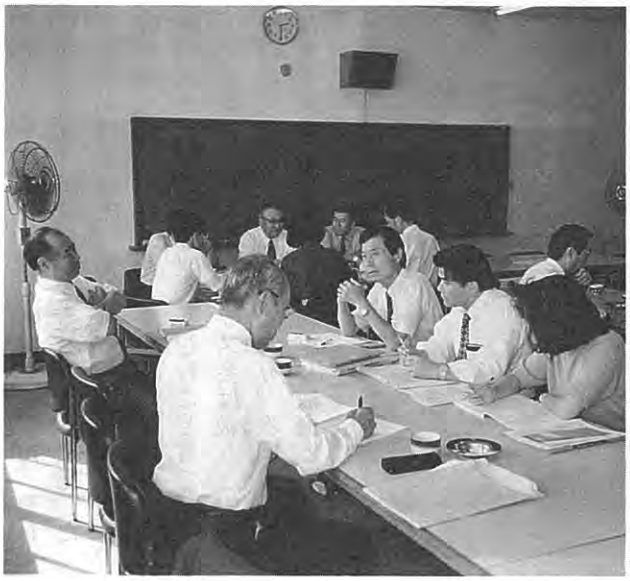
**祝賀会委員会**　（担当　梅田清永　10M）

会場は中野サンプラザを予定している。教育庁、学校、PTA、PTAOB、同窓会が主体となり、二五〇～三〇〇名程度で、立食パーティー方式で行なわれる。

**記念誌委員会**　（担当　島田勝利　7M）

A4版、一六〇～七〇頁で、その内グラビアが五〇頁程度、同窓会関係の文章は、三〇頁程度になる予定。





## 創立五十周年記念行事協賛分担金に対する寄附の二依頼

創立五十周年記念行事の総予算額は、一千万円の規模で計画されておりますが、その内同窓会からの協賛金は五百万円となっております。左記の通り同窓生の皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一、同窓会名簿の発行に伴い協賛広告を募集する。

B5版一頁　十万円　三社　三十万円
B5版半頁　五万円　三十社　百五十万円
小　計　百八十万円

二、同窓会名簿の購入と創立五十周年記念行事への協賛寄附金を依頼する。

**Aコース　五千円　二百名　百万円**
内訳　同窓会年会費　二千円
名簿購入代金　三千円

**Bコース　一万円　百　名　百万円**
内訳　同窓会年会費　二千円
名簿購入代金　三千円
協賛寄附金　五千円
創立五十周年記念誌贈呈

**Cコース　二万円　六十名　百二十万円**
内訳　同窓会年会費　二千円
名簿購入代金　三千円
協賛寄附金　一万五千円
創立五十周年記念式典及び祝賀会に招待
創立五十周年記念誌及び記念品贈呈
小　計　三百二十万円

**合　計　五百万円**

# 豊四六の仲間清里に集う

昭和三十五年卒　11ＭＢ　中村勝一

豊四六の由来は昭和三十五年十一期卒業の機械科Ｂ組、担任は豊田先生で生徒四十六名に因み名付けたものである。さて卒業後三十三年目のクラス会が平成五年八月二十八、二十九日に行われた。当日は台風一過の快晴で、車で清里寮に直行した人、および小海線清里駅に集合後、車で寮まで来られた人等であり、昭和四十年頃の清里を知る者にとって現在の変わりようにただ驚くばかりであった。今回の参加人数は石井夫妻を含め二十一名で中でも遠路はるばる福島より駆け付けた岡島君、同じく大阪より西野君も参加して頂きました。

午後四時を過ぎる頃から旧友が二人、三人と集まりかけ、再会の挨拶をするが誰だかすぐに名前が浮かんでこない。しかし少し話をしている中に中工時代の面影が少しづつ甦って来て三十三年前にタイムスリップしたような感じで大変懐かしく思われた。宴会までの間、夕闇せまる清里寮庭内での写真撮影や学校寮周辺の散策に各人思い思いに過ごした。六時過ぎに全員集合、いよいよ宴会が始まり、再会を祝し乾盃の後、全員に自己紹介を兼ね、卒業後三十三年間今日に至る迄の話は尽きることなく、夜の更ける迄続いた。

中でも子供の教育や学校のこと、子育ての終わった人はこれから自分のしたいこと、および単身赴任の暮らし方、健康のことなど話題には事欠くことなく話は午前二時頃迄続いた。翌日は早朝の列車に間に合わせる為、早く出発した人を除き七時半起床、朝食後、記念写真を撮り、八時半美し森に向け出発。美し森へは全員登り、初秋の八ヶ岳高原の眺望を楽しむこともできた。そして今回の清里寮でのクラス会は級友との親交を深められた良き二日間であり、次回は二年後にクラス会を行うことを約束し散会とした。

# 時間が足らないクラス会

昭和三十九年卒　15ＦＡ　小林美水

昨年の十一月末、クラス会を行った。小さな分科会？はやっているが、二十人近いメンバーの集まるのは久しぶりになる。今回の発端は、「日油」の清水君が坂口君の勤務先である「ニチレイ」の本社で十年ぶりにバッタリ逢った事による。「日東製粉」の山下君、それに私が加わって正式にクラス会をやろうという事になった。松沢先生に連絡し、ＯＫを頂き、幹事一人が十人程度を受け持ち、電話連絡、更に往復葉書を送るという二段階方式で人集めを行った。四十三人の卒業生で消息不明九人、死亡一人という状況にある。

会の当日、場所は新宿のスナック。遠くは大阪からの永島君、平塚から中島君と続々と集合してきた。（最終的に十九人集まった。）三十年ぶりに会う顔、二十年ぶり、十年ぶり、、、荒井、石川、板橋、伊藤、臼井、、、未だ暗記している出席簿の順番に名が浮かぶ、先生の言葉を頂き、乾盃し、進行係が卒業後三十㎏も太った荒井君から紹介して、各々が近況報告をした。サラリーマン、役所勤務、自営業、社長もいる。とにかく「懐かしい」「久しぶり」の声が飛び交っていた。イメージの変わった〝ヤツ〟ほとんどあの頃のままの〝ヤツ〟、いろいろだが何故か楽しい。幹事としては二次会へは行かないようにスナックで開催したのに誰も歌を歌わない！シャベリ足りない。まだ話をして

いない〃ヤツ〃がいる状態で、時間が足りない！。連絡はついたが都合が悪かった人、うまく連絡がつかなかった者など、まだまだ、沢山集まれる余地があるように思う。今後は我々が事務局になって、楽しいクラス会を開催する事を約束して散会となった。消息不明が九人いる。多いか、少ないかわからないが、早く捜し出し、もっと多くの人達と再開出来たらというのが実感だった。

昭和45年卒　21CB　クラス会　　桑原　忍　先生　担任

（写真のみ掲載）

## 記憶を辿る・・・五十年

昭和二十五年卒　1M　横川松雄

『七月十六日、十八時より上野の逢来閣でクラス会を開くので、出席出来るかどうかの返事を下さい。』世話人からの突然の電話連絡を受け、母校が創立五十周年を迎えるに当たって、偶然にしては何か因縁めいたものを感じた。

当日、会場に一人、二人と入って来る度に、『全然変わってないな』『誰だっけ？名前を思い出せない、入口で名前を言ってから入って来てもらったら？』『薄くなったなー。白くなったなー。痩せたんじゃないの。太ったなー。』すぐに昔に戻って会話が弾む。十九時四十分頃に最後の出席者が来て、予定の十三名全員の顔が揃った。

昭和十九年に都立杉並工業学校に入学、終戦。都立農産化学工芸学校と合併して、都立農産工業学校となる。更に学制改革で都立中野工業高等学校となって、昭和二十五年に卒業。この時点で一クラス二十九名か三十名、卒業写真も満足なものは残っていないが、お互いの記憶を辿りながら当時の学校生活を思い起こす。

授業は中野の校舎で行い、実習は荻窪に通ったこと。農耕作業、防空壕作り、疎開後の空家を取り壊す作業、校舎二階の教室の天井板を取り外す作業、等々を空襲警報が出る度に避難しながらやったこと。

終戦後は食品不足のため、畠作りや食糧の買い出しをやったこと。

五十年前の思い出話は尽きることなく続く。あっと言う間にお開きの時間となり、会場を設定してくれた原田君、電話連絡を一人で取ってくれた渡辺君に感謝しながら、再会を約して記念撮影後に解散した。

尚、当日の出席者は阿部（一）、阿部（保）、井上、岩渕、小田川、尾崎、川村、白井、中島、原田、三谷、横川、渡辺。（以上敬称略）

◆クラス会、中工会等が行なわれましたら、紙面に掲載させて戴きたいと思いますので、是非写真や記事等をお送り下さい。お待ち致しております。

# 清里寮開寮祭（清陵祭）

恒例の清陵祭が去る四月二十四日（日）に又、二十三日（土）に前夜祭が開催された。七年前に再開寮されましてから、毎年四月下旬に、学校関係者と同窓会が集まりまして、清里寮の事業の発展と、ご利用下さいますお客様の安全を祈り開かれております。

今年は総勢二十三名が小雨の中、三千坪の敷地内の遊歩道を整備し、倒木や枯れ枝を集めファイヤーストームを行なったり、寮内の大広間で親睦のための宴会やカラオケで楽しい行事になりました。

中工清里寮は、在校生や、同窓生の学校関係者以外にも、同窓生等の紹介があれば、ご利用になれますので、大いに利用して頂き、楽しい清里寮を大勢の方々に経験して戴きたいものです。

**◆清里寮の利用に関する◆**
**問い合わせは**

財団法人　清陵会
電話　〇三―三九九一―六七二三
事務局　和泉産業（株）内
小池　迄

# 第三回 舘野杯争奪 柔道大会 開かれる

平成六年六月十日第三回舘野杯が開催され、母校柔道部ＯＢの第二十九期工業化学科大島英二さんと第四十期食品工業科石川昭彦さんで決勝戦が行なわれましたが、延長戦でも両者ゆずらず、舘野杯は持越しとなり本年十一月に再度行なわれる事となった。

この舘野杯は昭和五十二年卒業第二十八期食品工業科故舘野一弘氏のご遺志を継ぎ、一昨年より開催されています。

故舘野氏は在学中には柔道部の主力選手として活躍され「中工に柔道部あり」と広く知られる原動力になられた方です。同窓会活動としても名簿委員会の中心メンバーとして、大きな身体で小さなパソコンをあやつり、昭和六十三年に待望の同窓会々員名簿が完成したのも、氏のご尽力による所大であります。氏は三年前白血病に倒れ、遂に帰らぬ人となってしまいました。

氏のご遺志を継ぎ、母校柔道部は在校生とＯＢとが力を合わせ、部の発展の為に努力しております。氏のご冥福と母校柔道部の発展をお祈り致します。

柔道部ＯＢの方々、氏とご親交のあった方々、次回（本年十一月）の舘野杯には是非ご参加下さい。

# 事務局からのお願い

同窓生の皆様、お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。早いもので、来年には、創立五十周年を迎える事となりました。会の活動としまして、その活動状況を皆様にお知らせする同窓会々報の発行、五十周年記念行事の準備、同窓会名簿の発行、清里寮の年内財団化等々があります。この活動を行うためそれぞれ総務、名簿、五十周年記念行事、財団設立の四つの委員会で鋭意取り組んでおります。

同窓会年会費二千円納入をお願い致しております、毎年多くの方々のご賛同を戴いておりますが、全体からしますとまだまだ少数です。八千有余名の同窓生への通信費、清里寮の維持費、母校行事への支援等々、必要な費用が不足しております。諸般の事情をご賢察の上、同窓生各位におかれましては、同封致しました振り込み用紙にて『年会費二千円』を納入して下さいます様お願い致します。

事務局長　島田勝利（7Ｍ）

平成六年八月三十一日発行
東京都立中野工業高等学校
**全日制同窓会　会報**
〒一六五　東京都中野区野方三―五―五
ＴＥＬ　〇三―三三八五―七四四五
編　集　同窓会総務委員会
発行人　竹井　博